

各 位

2026年6月10日
株式会社リットーミュージック

5代目宣伝部長・福永邦昭が東映～角川映画の宣伝術を披露！
書籍『実録！ 東映三角マーク宣伝部』が6月19日に発売、トークイベントも開催！



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）で文芸・カルチャー関連を扱う出版レーベル立東舎は、『実録！ 東映三角マーク宣伝部』（福永邦昭著、尾形敏朗構成）を、2026年6月19日に発売します。

1966年から東映本社の宣伝部に勤務し、宣伝畑一筋。5代目宣伝部長も務めた福永邦昭氏が、古き良き昭和の映画界を回顧します。「仁義なき戦い」「トラック野郎」「極道の妻たち」といった東映人気シリーズはもちろん、角川作品の「セーラー服と機関銃」や「戦国自衛隊」、自身が企画した東映作品「わが愛の譜 滝廉太郎物語」まで、なんでもありだった時代のカツドウヤの生態を作品にからめて活写。監督陣や俳優、スタッフとの生々しいやりとりは、それぞれの作品鑑賞に新しい視点を与えてくれることでしょう。

も、客が見込めるところ、お金をたくさん積んでくれるところを優先して効率よくスケジュールを組んでいくわけ。1年半くらい前から動いて、いくら収入が見込まれるのか。受け入れ側の中央大学の個人会にしても興行だから、賭けなんだよね。中央大学のバンドは面白いとね。ばあ年につながる。それは映画興行も変わらない。そういう実績がないとね。

七光りの困惑

——東映の入社試験、お父様は大川社長の右腕(63年3月には東映不動産の常務)だし、強いコネがあったわけだしよ。
 そうなんだよ。実はそれが僕の一つのコンプレックスなんです。コネで入ったことが逆に僕を燃えさせたっていうか、僕の七光りじゃないぞ！ それを証明しなきゃいけない。

——出勤はお父様と一緒に？
 もちろん別々。妻聖子(紙)の人からいろいろ聞かれて、最初はとぼけてたんだけど、パレタウチの親父は口が堅いから、僕のところに来る。まるで広報担当(笑)。親父は66年8月8日にガンでなくなるんだけど、マキノ光雄さん(製作本部長、東映大躍進の功労者)に頼り東映2番目の社長なんです。大川社長が叩辞をされた。



大東映映画館前にて、脚本文字



脚本の文・香子の参謀で引退を説く大川博三氏。奥手に脚本本等

事務所の社長、平田崑さんが大反対するんですよ。それで広告も、単なる露出じゃなくて、代案として思いついたんじゃないかな。

『週刊プレイボーイ』2月27日号に「悪女・綾香役に体当たり演技で大女優ヘトライ 東映『白昼の死角』に出演中の島田雅子」の見出しでモノクログラビアが3頁。夏木勲との裸れ場で乳房を見せている。「撮影 本誌写真部」とあった。福永は事務所社長の反対を押し切って特写させたのか。

——『白昼の死角』は稀代の大型詐欺師の話ですから、キャスティングもワルノリ風で面白かったですね。元裁判官の鬼頭史郎と言っても、今は知らない人が多数でしょうけど、検事部長をかたつて当時の三木首相に電話した、「セ電話事件」で国会に証人喚問された時の人に、井護士役で出てもらいました。誰のアイデアですか？
 あれは僕です。名古屋に出張交渉で行ったんじゃないかな。

——その撮影現場は、角川春樹さん、佐藤慶さんとの3人のシーンで、マスコミを呼びましたね。それと何より驚いたのは、主人公鶴岡七郎のモデルが現れたこと。
 あれは誰から聞いたのかな、お会いして、失礼ですが本人と確認できるものがないですか？

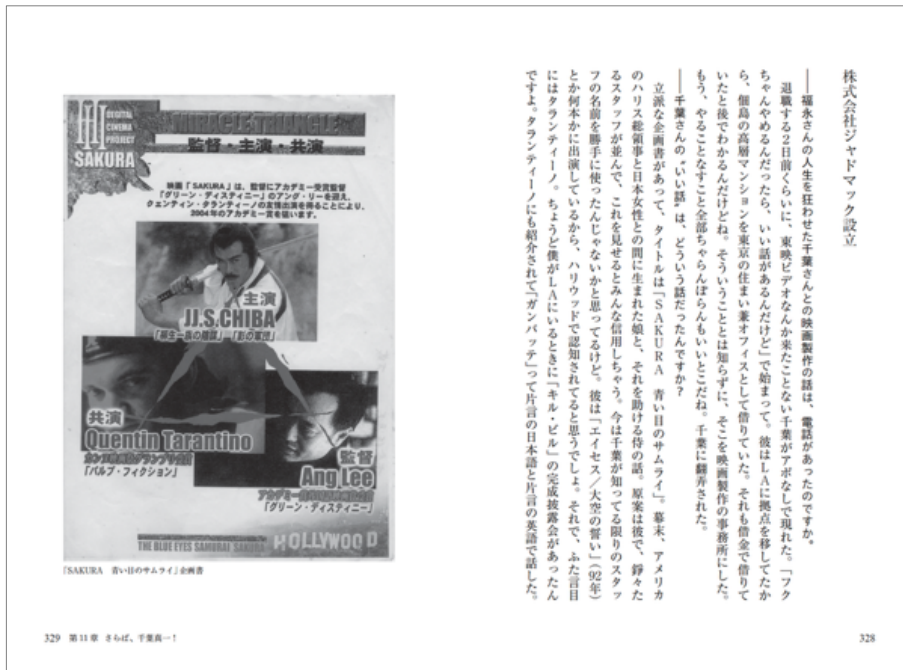


鶴岡のモデルが持参した高木勲元の生原稿

て言ったら、高木さんの生原稿が全部あるよと言って、ゴソッと持って来た。それを東映の会議室で写真に撮った。

——旧タイトル『黄金の死角』の生原稿の山でした。私の記憶では、机にいたら福永さんが突然耳元で「本物が来てるよ！」って囁くんですよ。「え!?」隣りのモデルだよ。廊下をはさんで洋画部の向かいにあるテレビ部の応接で、その方が遠迎英徳さんと話してました。

あ、亮徳さんの線か。
 あの方は帝國ホテルを常宿にしていた。東南アジアとかアラビアの石油のコーディネーターみたいなことやってると、それで『週刊プレイボーイ』に本物が現れたと記事を書り込んだ(4月10



インタビュー＆構成は映画評論家の尾形敏朗氏が担当。実は尾形氏は大学3年冬から卒業までの1年半、東映で福永氏の宣伝アシスタントを務めていたとのことで、聞きづらいエピソードも遠慮無しに引き出しています。

このコンビだからこそ世に出すことができた内容満載ですが、それでは足りぬとばかり、発売記念トークイベントも決定！ 6月13日（土曜）には神保町・書泉グランデで先行発売トークが開催されますが、配信なしの一本勝負。クローズドな環境ならではのトークを期待できます。また、発売日前日の6月18日（木曜）には文喫六本木でも先行発売トークを開催。こちらの司会は映画史研究家の伊藤彰彦ということで、どんな話が飛び出すか楽しみです。

■ 書誌情報

書名：実録！ 東映三角マーク宣伝部
 著者：福永邦昭著、尾形敏朗構成
 定価：3,300円（本体3,000円＋税10%）
 発売：2026年6月19日
 発行：立東舎／発売：リットーミュージック
 商品情報ページ <https://rittorsha.jp/items/2631740801.html>

CONTENTS

- 第1章 楽団マンから宣伝マンへ
- 第2章 時代劇から不良性感度の東映へ
- 第3章 仁義なき戦いに燃える
- 第4章 爆走！トラック野郎
- 第5章 角川春樹がやって来た！
- 第6章 角川映画の宣伝術
- 第7章 カドカワ以外も騒がせた
- 第8章 宣伝部長への道
- 第9章 宣伝部長はつらいよ
- 第10章 定年前後の苦い味
- 第11章 さらば、千葉真一！

PROFILE

福永 邦昭（ふくなが・くにあき）

1940年、東京都杉並区生まれ。中央大学経済学部を卒業後、1963年に東映入社。中部支社の経理課～営業課～宣伝部勤務を経て66年、本社宣伝部に移る。以後は宣伝プロデューサーとして長編アニメや任侠・実録アクション、文芸作品など数多くの映画を担当。

尾形 敏朗（おがた・としろう）

1955年、愛媛県大洲市生まれ。早稲田大学在学中、東映宣伝部で福永邦昭のアシスタントとして働く。卒業後79年博報堂入社。主にCMプランナーとして勤務のかたわら日本映画を中心に評論活動。定年退職後はフリー。著書に「小津安二郎 晩秋の味」（河出書房新社）、「完本・巨人と少年 黒澤明の女性たち」（ワイズ出版映画文庫、キネマ旬報読者賞受賞）など。

EVENT

『実録！ 東映三角マーク宣伝部』刊行記念～トークイベント「日本映画の熱き日々」

日時：2026年6月13日（土）

場所：書泉グランデ6階（神保町）

参加費：書籍代金 3,300円＋イベントサポート費 550円＝3,850円

詳細：<https://www.shosen.co.jp/event/42924/>

EVENT

『実録！東映三角マーク宣伝部』発売記念スペシャルトークイベント

日時：2026年6月18日（木）

場所：文喫六本木

参加費：【会場参加】イベント参加チケット 3,850円（書籍代金は含まれません）、【配信視聴】

イベント参加チケット 1,100円

詳細：<https://bunkitsu-jitsurokutoei.peatix.com/>

【立東舎】<https://rittorsha.jp/>

立東舎は文芸、マンガほか、さまざまな分野のポップカルチャーを紹介する出版活動を展開中。

「乙女の本棚」などの好評シリーズのほか、手塚治虫、谷ゆき子らの幻のマンガの復刻などで感度の高い読者の話題を集めている出版ブランドです。

【株式会社リットーミュージック】<https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やTシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等のWebサービスも人気です。

【インプレスグループ】<https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：塚本由紀）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp